

(別記)

2020 年度大和町地域水田農業推進協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

大和町は宮城県のほぼ中心に位置し、町の中央を流下する吉田川流域の低湿地帯と、その支流沿いに点在する耕地また奥羽山系に属する起伏に富む山間丘陵地帯からなる。耕地面積は2,769haで、このうち水田面積は2,480haで全耕地面積の89.6%を占めており、大和町西部地区では稲作を中心に畜産及び果樹などとの複合経営や菌茸類の栽培、東部地区は集落営農組織を中心とした水稻をはじめ麦、大豆、そば等の集団転作が広く実施されている。

町内の水田は30a以上の基盤整備率が67%であり、これら水田をフルに活用して土地利用型農業の生産性向上等を一層進めていく必要がある。

農家数は1,262経営体ほどであるが近年は高齢化、後継者不足が進んでおり、年々減少していくものと見込まれる。今後は地域農業を担っていく経営体の育成や宮城県中間管理機構を活用しながら、それら担い手への農地集積が急務である。

主食用米の作付けに関しては、国による生産数量目標の配分の廃止に伴い、「生産の目安」を提示することで、需要に応じた生産体制を確立し、継続することが必要となっている。

麦や大豆、そばについては集積を進めるとともに単収向上や品質の向上に取り組んでいるが、天候等により大きく影響を受けるため、排水対策や病害虫対策等生産技術のさらなる徹底を図っていく。また、新規需要米については飼料用米やWCS用稲、新市場開拓用米等により需要量に応じた生産を行っていく。

大和町の水田農業を確立するため、水田をフルに活用した主食用米や麦、大豆、そば等の畑作物をはじめ、加工用米等の米対応転作作物の作付拡大を図るとともに担い手育成・農地集積をあわせて推進していく必要がある。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

消費者に信頼される米づくりを推進することとし、市場動向を見据えながら、売れる米づくりを目指した需要に見合った品種への作付け誘導を図る。また、トレーサビリティを意識した肥培管理統一の推進や特別栽培米の作付面積を拡大し、高品質米としての付加価値を高める取り組みを進めるとともにコスト削減・設備投資抑制に繋がる直播栽培も併せて推進する。

(2) 非主食用米

主食用米は、今後、更に需要の減少が見込まれることから主食用米に代わる水田フル活用作物として、米対応の転作作物である飼料用米等の生産維持、拡大を推進する。

ア 飼料用米

需給動向や取引価格を注視しながら多収品種の導入を進めるとともに、作付拡大を推進するものとする。

イ 米粉用米

取組なし

ウ 新市場開拓用米

今後大きな需要が見込まれる新たなマーケットを切り拓いていくことは極めて重要な課題となることから、主食用米から新市場開拓用米への転換を推進する。

エ WCS 用稲

畜産農家等実需者との結びつきが必要なことから、現状を維持しながら新たな需要拡大に向けた取組を推進する。

オ 加工用米

関係機関・団体と連携し、実需者への販路拡大を推進し、安定的な販路と需要量を確保するため、低コスト栽培の取組を支援する。

カ 備蓄米

主要な需給調整の手段として安定的に活用できることから、調整水田などへの作付けにより、これを継続的に維持・確保していく。

(3) 麦、大豆、飼料作物

生産組織等による麦、大豆等の畑作物の集積を促進し、排水対策を徹底させることで、高品質及び生産収量の増加を図る。

また、町内での畜産振興を図る面からもイタリアンライグラス等の飼料作物を推進し、産地交付金を活用し畜産振興地域を中心に集積により作付面積拡大に積極的に取り組むものとする。

(4) そば、なたね

県内でも有数の作付けとなっているそばについては、地域の特産品として地産地消を推し進める。収穫量、品質の確保を図るため排水対策の徹底や産地交付金を活用し作業集積による生産性向上を図る。なたねについては取組なし。

(5) 高収益作物（園芸作物等）

収益性の高い農業を目指し、園芸作物等について水田を活用した加工・業務用野菜など土地利用型の園芸を推進し、団地化により農家所得の向上を図る。

(6) 畑地化の推進

主食用米の需要の減少傾向が続くことが想定される中、農地の排水性の改善や集積等に計画的に取り組むためにも、地域における効率的な土地利用にも配慮しつつ、畑作物の本作化を進める必要がある。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	1,386.49	1,406.00	1,406.00
飼料用米	130.33	139.46	210.00
米粉用米	0.00	0.00	0.00
新市場開拓用米	2.63	3.46	15.00
WCS用稲	34.68	36.84	40.00
加工用米	11.07	3.56	4.00
備蓄米	18.15	4.71	40.00
麦	97.18	72.28	115.00
大豆	120.26	131.05	140.00
飼料作物	17.28	18.00	25.00
そば	127.12	129.10	180.00
なたね	0.00	0.00	0.00
その他地域振興作物	80.78	82.07	94.00
野菜	68.62	69.83	72.00
果樹	8.47	8.61	9.00
景観作物	2.87	2.87	12.00
その他	0.82	0.76	1.00

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理番号	対象作物	用途名	目標	目標	
				前年度(実績)	目標値
1	小麦(基幹作物)	排水対策取組助成	排水対策強化の取組面積目標 10aあたりの収量目標	(2019年度)4.9ha (2019年度)161.5kg/10a	(2020年度)25.0ha (2020年度)384.8kg/10a
1	大麦(基幹作物)	排水対策取組助成	排水対策強化の取組面積目標 10aあたりの収量目標	(2019年度)20.3ha (2019年度)98.8kg/10a	(2020年度)90.0ha (2020年度)161.7kg/10a
1	大豆(基幹作物)	排水対策取組助成	排水対策強化の取組面積目標 10aあたりの収量目標	(2019年度)31.3ha (2019年度)82.9kg/10a	(2020年度)140.0ha (2020年度)168.3kg/10a
1	そば(基幹作物)	排水対策取組助成	排水対策強化の取組面積目標 10aあたりの収量目標	(2019年度)33.0ha (2019年度)30.4kg/10a	(2020年度)180.0ha (2020年度)30.4kg/10a

整理 番号	対象作物	使途名	目標	目標値	
				前年度（実績）	目標値
2	飼料作物 （基幹作物）	作業集積助成 （飼料作物）	作業集積面積 飼料作物 10a あた りの労働時間	(2019 年度) 9.7 ha (2019 年度) 2.25h/10a	(2020 年度) 25.0ha (2020 年度) 2.00h/10a
3	麦・大豆・そば・ なたね・飼料作物 （二毛作）	二毛作助成	二毛作の取組面積 戦略作物（基幹作 物）作付面積の内 二毛作に取り組ん でいる割合	(2019 年度) 62.2ha (2019 年度) 17.2%	(2020 年度) 124.0ha (2020 年度) 35.0%
4	飼料用米の生産ほ 場の稲わら（基幹 作物）	耕畜連携助成 （わら利用）	耕畜連携取組面積 飼料用米作付面積 の内、耕畜連携に 取り組んでいる割 合	(2019 年度) 79.7ha (2019 年度) 61.2%	(2020 年度) 84.6ha (2020 年度) 65.0%
5	そば（基幹作物）	そば振興助成	取組面積	(2019 年度) 127.1ha	(2020 年度) 180.0ha
6	飼料用米（複数年 契約）（基幹作物）	飼料用米複数年契 約取組助成	複数年契約取組面 積・数量	(2019 年度) -	(2020 年度) 189.0ha 969.6t
7	新市場開拓用米 （基幹作物）	新市場開拓用米取 組助成	新市場開拓用米取 組面積	(2019 年度) 2.6ha	(2020 年度) 15.0ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり